

## ぶどう第7回講座（果樹試験場視察）情報

8月6日の果樹試験場視察は、暑い中ご苦労様でした。

視察では、新品種クイーンルージュや、シャインマスカット、ナガノパープルの枝管理など多くのことを懇切丁寧に説明いただき、今後のぶどう栽培の参考に活かしていきたいですね。

クイーンルージュの栽培情報は、まだ公表されていないこともあるので、ここでの情報は一部分の紹介とします。（写真1）

導入に当たっては、開花時期がシャインマスカットほぼ同時期ですので、労力配分に注意。

欧州系のぶどうなので、病気・生理障害に注意が必要とのでした。

部分雨よけ（写真2）も行っていました。ジベ処理時に雨を心配せずにできます。ベト病やダニの発生に注意が必要です。経費は50～60万円/10a のことでした。

6本主枝の育成では、外側を育成してから、内側を返し枝(写真3)で生育を弱めることがポイントとのこと、これはWHの場合も言えることと思います。

シャインマスカットでは、今年はフラスター試験のため、開花時期の摘心が遅れ小玉(写真4)になっているとのこと、新梢管理は開花から満開40日（果粒軟化期。但し、直前の強い摘心は避ける。）まできちんと適期に行うことの大切さを説明いただきました。

ナガノパープルでは、延長枝は8月頭には摘芯し、成熟を揃える。房は450gを目指し（写真5）、600gは裂果の要因になる。枝管理は、明るさを確保するため、2週間に1回行っている。かん水は土壌水分の変動を少なくする管理が必要とのことでした。

その他にも多くの説明をいただきました。Facebook でコメントに感想やためになったことなどを投稿いただけると幸いです。

長野農業改良普及センター 垂澤秀俊



(写真1) クイーンルージュ



(写真2) 部分雨よけ



(写真3) 返し枝



(写真4) シャインマスカット



(写真5) ナガノパープル